

第29期 決算速報

(2022年7月1日から2023年6月30日まで)



2023年8月14日

株式会社 旅籠屋

会社名 (定款上の商号)

英文名 (英文商号)

代表者の役職氏名

本店の所在地

電話番号

連絡先

株式会社 旅籠屋

Hatagoya & Company

代表取締役社長 吉井 慎也

東京都台東区寿3丁目3番4号

03-3847-8858

常務取締役 小島 裕生

I 当期の業績

(1) 損益計算書 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別		前年度	当年度	当年度	当年度	当年度	前年同期比	前年度
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	累計	累計		累計
	2022.4.1~	2022.7.1~	2022.10.1~	2023.1.1~	2023.4.1~	2022.7.1~	2023.4.1~		2021.7.1~
	2022.6.30	2022.9.30	2022.12.31	2023.3.31	2023.6.30	2023.6.30	2023.6.30		2022.6.30
I 営業収益 売上高	472,870	649,444	578,534	529,250	573,430	2,330,659		+34.3%	1,735,040
II 営業費用 売上原価	449,425	454,286	469,164	482,488	495,300	1,901,239		+8.9%	1,745,492
販売費及び一般管理費	57,960	60,235	58,422	53,833	61,002	233,493		+5.0%	222,378
営業利益または営業損失(▲)	▲34,516	134,923	50,948	▲7,071	17,127	195,926		-	▲232,829
III 営業外収益	3,609	672	698	1,961	6,641	9,972		▲17.2%	12,039
IV 営業外費用	10,732	7,964	6,844	6,956	14,865	36,631		+43.1%	25,593
経常利益または経常損失(▲)	▲41,639	127,630	44,801	▲12,067	8,903	169,268		-	▲246,384
V 特別利益	-	-	-	19,403	-	19,403		+1,942,168.6%	0
VI 特別損失	15,160	638	0	19,403	-	20,042		▲69.4%	65,390
税引前四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲56,800	126,991	44,801	▲12,067	8,903	168,629		-	▲311,773
法人税、住民税及び事業税	4,542	4,377	4,377	4,377	4,402	17,533		▲1.6%	17,811
法人税等調整額	-	-	-	-	▲48,993	▲48,993		-	-
四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲61,343	122,614	40,424	▲16,444	53,493	200,088		-	▲329,585
期中平均株式数	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589	5,589		-	5,589
1株当たり四半期(当期)純利益または純損失(▲)	▲10,976円	21,938円	7,233円	▲2,942円	9,571円	35,800円		+94,770円	▲58,970円

・潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 ・前年度第4四半期の特別損失15,160千円は、秋田六郷店、仙台亘理店、九十九里店、鳴門駅前店、鳥取倉吉店、鹿児島垂水店の減損損失です。当年度第1四半期の特別損失638千円は北上海釣子店の閉鎖に伴う固定資産除却損です。同第3四半期の特別損失19,403千円は、前々期におけるGoToトラベル事業に対する誤請求分の返納金です。同特別利益19,403千円は、当該返納金に充当するため前代表取締役伊藤真氏から申し入れを受けた役員退職慰労金の受取辞退および追加の負担分です。

(2) 貸借対照表 (単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	期別		前年度	当年度	当年度	当年度	当年度
	第4四半期末	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	第4四半期末	第4四半期末	第4四半期末
	2022.6.30	2022.9.30	2022.12.31	2023.3.31	2023.6.30	2023.6.30	2023.6.30
(資産の部)	I 流動資産	現金預金	596,529	745,894	784,540	754,290	814,124
		その他	101,504	109,406	136,754	120,869	93,458
		流動資産合計	698,033	855,301	921,295	875,160	907,583
	II 固定資産	リース資産	272,243	262,274	252,304	242,334	232,364
		他の有形固定資産	933,041	911,875	895,082	875,897	855,370
		無形固定資産	15,445	12,936	10,474	8,013	5,705
		投資その他の資産	217,479	217,013	216,277	215,792	264,029
	固定資産合計	1,438,209	1,404,099	1,374,139	1,342,038	1,357,471	
	資産合計	2,136,243	2,259,400	2,295,435	2,217,199	2,265,054	
(負債の部)	I 流動負債	304,413	319,449	329,457	280,381	438,769	
	II 固定負債	長期借入金	2,000,175	2,000,175	2,000,175	2,000,175	1,847,831
		他の固定負債	328,458	313,965	299,566	286,850	275,168
	負債合計	2,633,047	2,633,589	2,629,199	2,567,407	2,561,768	
(純資産の部)	I 株主資本	資本金	100,000	100,000	100,000	100,000	100,000
		資本剰余金 資本準備金	68,916	68,916	68,916	68,916	68,916
		その他資本剰余金	41,710	41,710	41,710	41,710	41,710
		利益剰余金 繰越利益剰余金	▲650,631	▲528,017	▲487,592	▲504,036	▲450,542
		自己株式	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798	▲56,798
		株主資本合計	▲496,803	▲374,188	▲333,764	▲350,208	▲296,714
	純資産合計	▲496,803	▲374,188	▲333,764	▲350,208	▲296,714	
	負債・純資産合計	2,136,243	2,259,400	2,295,435	2,217,199	2,265,054	
	発行済株式総数	5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	5,589株	
	1株当たり純資産	▲88,889円	▲66,951円	▲59,718円	▲62,660円	▲53,089円	

・長期借入金のうち60,000千円は日本政策金融公庫から、240,000千円は商工組合中央金庫から、300,000千円は日本政策投資銀行からのそれぞれ資本性借入金であり、金融検査上資本と見なされます。

(3) 株主資本等変動計算書 (2022年7月1日～2023年6月30日、単位：千円、千円未満は切り捨てて表示)

項目	株主資本						純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他 利益剰余金			
				繰越利益剰余金			
当期首残高	100,000	68,916	41,710	▲650,631	▲56,798	▲496,803	▲496,803
第1四半期中の変動額 四半期純利益				122,614		122,614	122,614
第1四半期中の変動額の合計				122,614		122,614	122,614
2022年9月30日残高	100,000	68,916	41,710	▲528,017	▲56,798	▲374,188	▲374,188
第2四半期中の変動額 四半期純利益				40,424		40,424	40,424
第2四半期中の変動額の合計				40,424		40,424	40,424
2022年12月31日残高	100,000	68,916	41,710	▲487,592	▲56,798	▲333,764	▲333,764
第3四半期中の変動額 四半期純利益				▲16,444		▲16,444	▲16,444
第3四半期中の変動額の合計				▲16,444		▲16,444	▲16,444
2023年3月31日残高	100,000	68,916	41,710	▲504,036	▲56,798	▲350,208	▲350,208
第4四半期中の変動額 四半期純利益				53,493		53,493	53,493
第4四半期中の変動額の合計				53,493		53,493	53,493
2023年6月30日残高	100,000	68,916	41,710	▲450,542	▲56,798	▲296,714	▲296,714

(4) 貸借対照表および損益計算書の作成の基本となる事項

四半期の貸借対照表および損益計算書の作成の基礎としている会計処理の原則および手続は、下記事項を除き正規の決算において採用している基準と同一のものを適用しております。正規の決算において採用している重要な会計方針等は「第28期事業報告書 注記表 I.重要な会計方針に係る事項に関する注記」をご参照ください。事業年度の貸借対照表および損益計算書の作成のために採用している会計処理の原則および手続と異なる会計処理の基準は次のとおりです。

- 固定資産の減価償却の方法 各四半期の減価償却費は年間償却見積額の4分の1相当額を計上しています。
 - 経過勘定項目 未収収益、未払費用等の経過勘定項目のうち、重要性の低い項目は、資産および負債に計上せず期間収益または期間費用として処理しています。
 - 消費税等の会計処理 仮払消費税等および仮受消費税等は、相殺のうえ、差額を流動資産または流動負債として計上しています。
- 当該四半期の貸借対照表、損益計算書および株主資本等変動計算書については、監査法人の監査を受けておりません。

(5) 表示方法の変更

(貸借対照表)

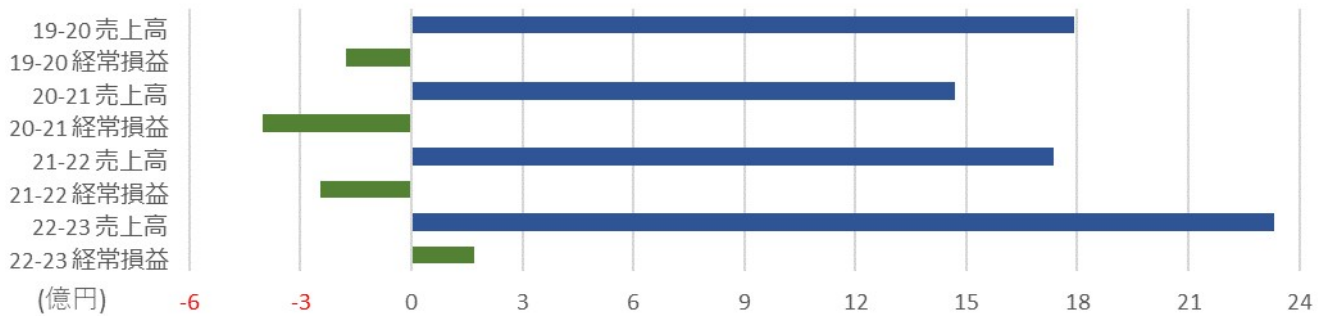
前事業年度において「固定負債」の「他の固定負債」に含めておりました「長期借入金」は、明瞭性を高めるため当第1四半期会計期間より区分掲記しております。また、前事業年度において「固定負債」で区分掲記しておりました「リース債務」は、重要性が乏しくなったため「他の固定負債」に含めることとしております。これらの表示方法の変更を反映させるため、前事業年度の貸借対照表の組替えを行っております。なお、変更前の前事業年度の貸借対照表における「固定負債」の表示は以下のとおりです。

(変更前 単位：千円)

	前年度 第4四半期末 2022.6.30
リース債務	305,458
他の固定負債	2,023,175

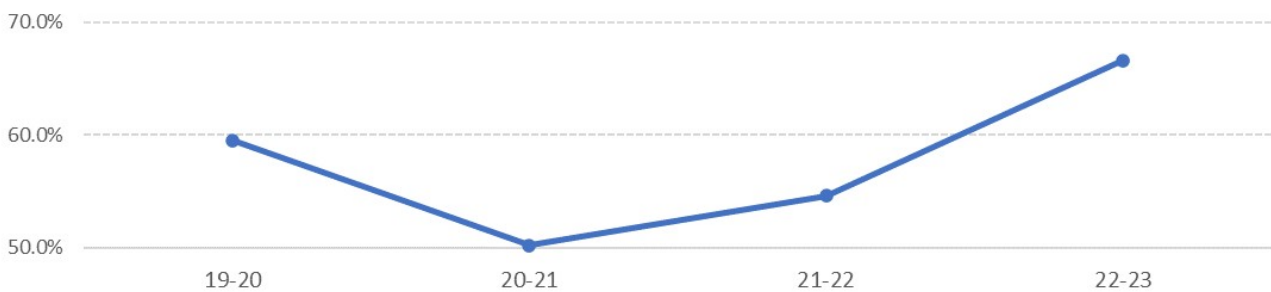
Ⅱ 第29期（2022年7月1日～2023年6月30日）の業績の概況

売上高・経常損益(全社合計)の推移 (2022年7月1日～2023年6月30日)



昨年同期と比較して売上高は 1,735,040→2,330,659 千円、経常損益は▲246,384→169,268 千円といずれも改善しました。県民割等の旅行支援策、またコロナ影響による行動制限が撤廃され正常化したことが要因として挙げられます。

客室稼働率(全店通算)の推移 (2022年7月1日～2023年6月30日)



客室稼働率は、前年同期 54.6%から 66.6%へと順調に回復しております。

【部門別内訳】については、掲載を見合わせております。オーナー様へは要望に応じてレポートさせていただきます。

Ⅲ 第30期の売上高および利益の予測について

(単位：千円、千円未満は切り捨てて表示しております)

科目	第27期 通期実績 2020.7.1～2021.6.30	第28期 通期実績 2021.7.1～2022.6.30	第29期 通期実績 2022.7.1～2023.6.30	第30期 通期予想 2023.7.1～2024.6.30
売上高	1,468,293	1,735,040	2,330,659	2,457,000
経常損益	▲400,658	▲246,384	169,268	167,000
当期純損益	▲417,101	▲329,585	200,088	124,000

コロナ前レベルに稼働が回復し、室料値上げにより売上高は伸びる予想

IV 資金および借入金の状況

(1) 現金および預金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	第28期第4四半期 2022.4.1～6.30	第29期第1四半期 2022.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.31	第29期第3四半期 2023.1.1～3.31	第29期第4四半期 2023.4.1～6.30
現金および預金の増減額	+322,195	+149,365	+38,645	▲30,249	+59,833
現金および預金の四半期首残高	274,333	596,529	745,894	784,540	754,290
現金および預金の四半期末残高	596,529	745,894	784,540	754,290	814,124

(2) 短期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	第28期第4四半期 2022.4.1～6.30	第29期第1四半期 2022.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.31	第29期第3四半期 2023.1.1～3.31	第29期第4四半期 2023.4.1～6.30
短期借入金の増減額	▲383,258	—	—	—	+152,344
短期借入金の四半期首残高	383,258	—	—	—	—
短期借入金の四半期末残高	—	—	—	—	152,344

借入金の増加は、次年度返済見込額を長期借入金から振り替えたことによるものです。

(3) 長期借入金の増減 (単位：千円、千円未満は切り捨て)

科目	第28期第4四半期 2022.4.1～6.30	第29期第1四半期 2022.7.1～9.30	第29期第2四半期 2022.10.1～12.31	第29期第3四半期 2023.1.1～3.31	第29期第4四半期 2023.4.1～6.30
長期借入金の増減額	+683,258	—	—	—	▲152,344
長期借入金の四半期首残高	1,316,917	2,000,175	2,000,175	2,000,175	2,000,175
長期借入金の四半期末残高	2,000,175	2,000,175	2,000,175	2,000,175	1,847,831

借入金の減少は、次年度返済見込額を短期借入金に振り替えたことによるものです。

(4) 投資その他の資産の内訳 第29期第4四半期末(2023年6月30日)時点(千円未満は切り捨てて表示)

172,750 千円	… 借上直営店における差入れ保証金(契約満了時返済)
24,643 千円	… 「水戸大洗店」における建設協力金(10年均等償却)
9,510 千円	… 保険料積立金
48,993 千円	… 繰延税金資産
6,205 千円	… 貸付金
1,210 千円	… 取引信用金庫などへの出資金
682 千円	… 信用保証協会への信用保証料
34 千円	… リサイクル預託金
合計 264,029 千円	

V 今後の事業展開について

正常化に向けて

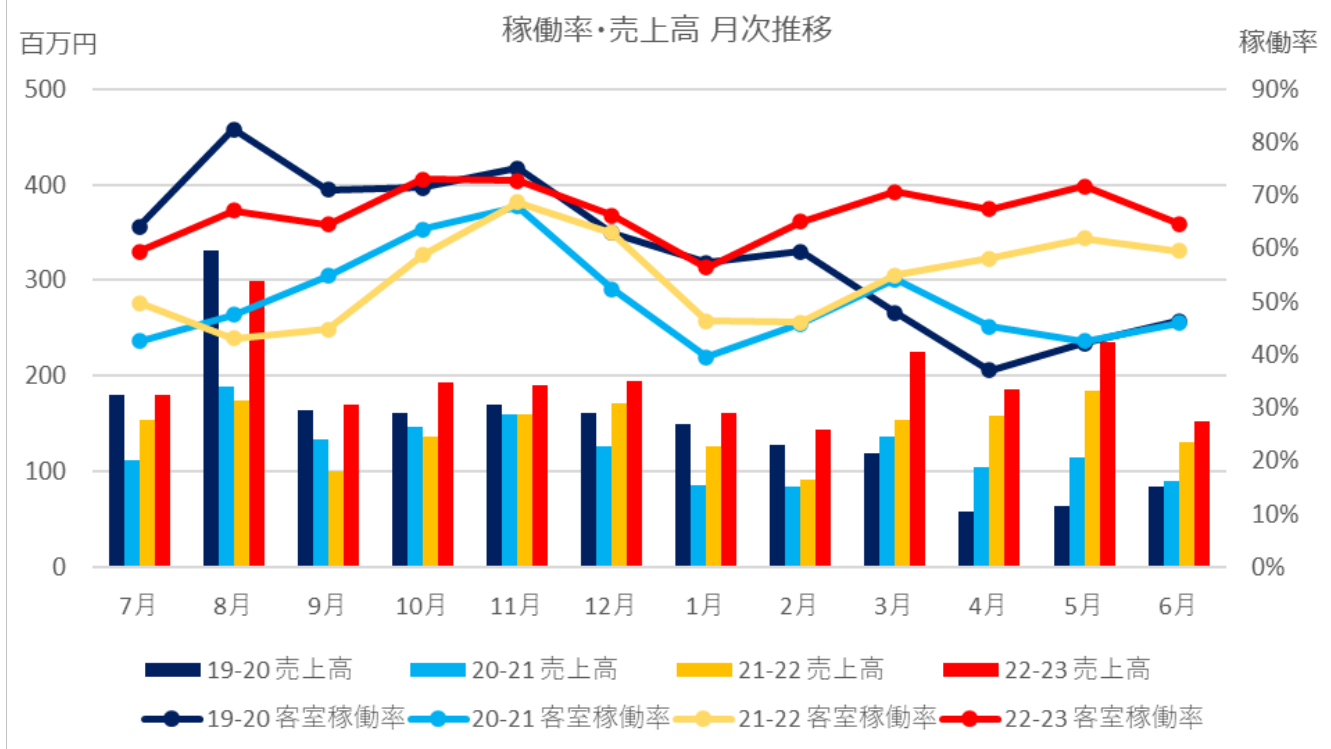
29期前半は何度も繰り返されるコロナの波に翻弄されましたが、その後の行動制限解除や全国旅行支援等により徐々に外出への抵抗感も薄まり、後半は急速にコロナ前の稼働レベルまで回復しました。今後については、資金繰りも問題ないことから見送っていた施策を再開させ、課題についても積極的に解消に向けて取り組んで参ります。

まず、2021年4月にオープンした庄内店以来、新店舗の出店を見合わせてきましたが、2年ぶりに計画を進めます。現在、候補を絞っているところですが、具体的になりましたら四半期報告書等で発表します。また老朽化した当社所有の那須店を建て替えるため、9月18日をもって一旦閉鎖いたします。リニューアルオープンは来春以降の予定です。さらに機器の入替えや全館清掃など、コロナ禍で見送ってきた施策を再開させます。

一方、課題としては、人財の確保、物価・光熱費高騰が挙げられます。人財の確保については、待遇や働き方など複合的な改善が求められており、早急な検討が必要と考えます。物価・光熱費高騰については、選定、節約、削減の意識を高く保ち、徹底して対策していきます。このように自社での努力を続けて参りますが、いずれも多大な費用がかかるためこのままでは安定した運営が保てない見通しとなり、やむなく2023年10月より室料アップすることになりました。昨年11月にも週末を中心に室料改定しましたが、それだけでは昨今の情勢には追いつかず、今回は平日も含めた値上げを実施することになりました。つきましては稼働と売上のバランスを見ながら、シーズン区分をうまく適用して収益を得ていく所存です。

現在、借入金の返済や人財流出等によりサービス業全体の倒産件数は増え続けております。30期は常に危機感を保ちつつ、確実な一歩を踏み出し、安定した運営にいち早く戻すことを目指します。

◆売上高と客室稼働率の月次推移



以上